栄花物語

巻第廿

WA 7
(20)
283

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

教育博物館印
明治十三年七月廿一日購求

栄花物語

卅九
四十

類 國史
屬 雜史
冊 二十一
函 五

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

布引の滝

宇治殿おもくわづらひ給ふとて

洛をいでて小二月二日うつせ

世行さまおろうの〳〵をたゞ

乃祖父〳〵めぐまれたまふ

ふるの上一言なしもの母を八十

雅平世の一乃人〳〵おぼ

おぼれつゝ人〳〵そのこゝろを

歌迷仏〳〵迷行ふ

すなはち法の一まり山てふ仏

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

ゆまつりにと御ふみ奉れ給へれば
三日の暮つ方ぞ御返事ありける
ことさらに御よみそへ給へるさま
てさしひねりたるもてはやし給へ
ばよろづおもしろき山乃ひゞきも
さぞとふらひ給へる百万遍をそ
へてぞ
かゝるんごとなきひじりの御へ
れ六十余年ひとへに世を
御ものゝ心しりたまへる人の思ひやし
三日の暮つ方給はりてさしそかへ
ましてはんの御さまあふ
つまおもひ給へるものゝひじり人
のうたなるぬ下部等こそ
ともかくもまひさうし
とをはつりかとみふ
世の事はまろうて
うえまろうてもむと
をのうえ形ち四十九日
たくせう後のまへ
うそ乃日まりを
く学うめうおほ

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

なくともつのはせ給ふ扇たてまつり覧てあら
ちのうち城ほうえまうを作りまうけをまうして
させ給てをうやのてとおわしまして
あそばしくおわしめすほ御傍ふらふせ給ふ
ほかてこみおわしめしうりかそ世中のいろ
あるこ頃りかとして尋ね参小一条院ほ或ハ
乃父故侍従宰相ほ皇太后宮ほ女房ふむまほせ給ひ
ふるおほせ給ね宇治大納言の御子のあ紀乃かた
若母ここもなうひあてやのなう人まて斎院を
四宮おりさせ給ふ小一条院の御子ひ
けう人をおわしめして猶隔女ほここそ

み中ねより備中守にもあ竹くうとやさ女宮ふ
うり物一竹けう二宮外祖父ハ小一条院の御子ひ
乃こおほかた世給へ給ほと陸奥紀
こ伝作くとおわしめさ重てこさ紀を院う
那そてまうんや尋ね左大とうく女侍
ねねこおわしますまうを六月八日ほ紀乃寛首
くこ菊ほ日大饗そ人くこ女房あうくさうん
おうなこいとめそたまほ太皇太后宮女
ほよおう世給ねとおわしめそて大皇太后宮ほ
給へしこさいおそて大皇太后宮ほ女給へ
さうえ中宮こそは故院ほ后ほ御一間

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

乃淨まさらもおもひつゝませそかとやつゝけた
皇太后宮の御ありさまは来ちきこえをはりまは
けてさやかに人をも御かみなりせ給もくいうそかと
やう人もあわゝかにおはれはおやのおもねはまされ
らを給もさうわゝめうし申給ふ人申給ふ
乃はおやなくてもえ受給はさりけりとて
給ふ時給りをおもくは給ふ御
同車にやまこもうかとの浄女きたちて
のうふ女帝にお給もなくやもなくわあります
院なとはうむと申給ふ逢やもおそれ
大女院は我御院分をゆつり申給さんと奏せさ給

給四條宮女院大皇太后宮と奏こえ給せつきくの乃
御ありさまいと申也中宮大宮おわる御ひ
ふうめくおもひたまふれよ給ふをきこえ給ふて
御ありさまいとたし大宮の日かわはまし
師子こ面いねりくやうひ寺院陣やはとの外
御前とをてとめうこくおもひ給ふ
とあの宮はおやの中納言ハ一のん乃店時よ
風流なる師子右馬の頭こひ清こひ大納言ハ成
給ふ紀伊あよ乃左馬の督をひ紀こ伝せ竹て寺院
の御ふ小侍んをの世給ふれてなる御一先帝
の中宮をは皇后宮と奏太后宮と奏太后

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

おとこ殿こうそうをれこうそうやあり
給すらん四重八うえて法華経二女院の
ろうろうおわしめてこころろうおけせ
給大納言殿を我しもめおわしまうしまいらせ
やいかこなうをのこ子ともいふなんなをの給
もすうと岡ゆうもまうとめやおうん大女院をは
上東門院とそおうとこなをまうさひく東小院とをかえ
おうしまうとうろうさうひく東小院とをかえ
さすが宇治殿こそれうる御法ひにをおわしおけ
おを給しまおろうなるもんちうろうろうやや
まさせ給うて女院わうこせ給うをは二條院

おもやせはうそん院も八十七ま
そうせうき給ひ
そうつゐてもはゝ北
ゐてとなるいもうとの
ゐてこれとうおもてまし
れさくまうせ竹ろ
ゐそくいみてうつ
人くも雲りゐてゐ
あいれなる手ゐさ
はきまりさうゐ
よれをこの人やそのや
いもんうきことゐうあ
きとおほせられそ

なと云をのを竹をりこのは
はゝ子院の小弐命婦侍といひ
北御方とさゝえうの高ゐ
ハゐ谷乃はゝとてゐ
そひひこゝ乃はゝ子ゐり
こうりはゝはせはてひ
いそはゝ高ゐれさせ竹女房
北ゐもおほえすいゐ
そくをとるのくなく
ゐはゝ海一面を見
なくゐりくゆく大盤とち

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

七日和にゐてうちたまてよまつ女上人のこうもの
まいりまつりたうさ種々のこともそのかさのりこち
あくてとまりうちまきいかてうちまきれ
ねのまとみてうちたまつひまそまこの
のやうも今日も内の御うちまつ孫の幸擔おまへ
さうちまふてまつそくいるうちまきて孫をいかりとおもひ
うちまくまつ波一隙院の御うちまやう笠式
北のひてまうちまつ御うちまひそこはひ
ま申しくまはなんとまつ位ちおりまま
かりまれ済かうひよたこそこれむれさせ

給へれハ今まてまつりたし
三日を八日にて多くへわつ世給紅梅のとおうつ世給て
人うちまひ状たり行幸のつきよまつ物給
き紀の里さ殿あの里ひかりうひくきかをうりやうて来三条
給こうやみてくきまつ世給和のうつ物
そうちまそまうつ物給そのかりつ世給和なを
里ひまつ三位おりまかり乃こむまを
ちまつ右かまつてをおりまなんまま右まそも

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

殿もまいなうすなうくなう
とせうき孫治郎小開白殿御
とのまてとまう孫竹ぬ三
御せ竹ぬ。まき左大殿開白の寛
ぬせうくうめくなき事の
なれさうく寛にを御うく
殿うなんゆつうせ給へうなうきこえ
おりにうち殿乃きうの世竹
事とその給をせけうの
おう御うく一院うう
まうくまうとせ給へ
御うう開白やのをえ
つまかとおまうとまえ
らひくおけうまして
まもせんまひたち御うく
竹けうまもの御うせ
をもものへうせ給へ
御せ給うお兄まを竹て
もなくいる黄不やの

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

この世をはかなうおもひつゝめりつゝ世語
りつゝと女院う物語を語みかたらひ
給けんおもひやるこそ
ものゝ中宮うへもこれをひて女うへまて
おもひまいらせたまへるこそ
つきなうまほをめくみくにに
てなうまもめくさんのうけう心ふかう
常のさまひとうほうへうの
ものゝめれとうちの大納言乃むすめ頼通の
もめの腹よりけるをいかに
源中納言女もとにふみかよ
ものいとよくおほをらまて
させ給ましくふうへうめてうれしき
まう宮うへ御うくみれうさ
務の君ちゆひまに人のう
うせ給うの兄東をはくせてはらん
給うれ比叡布引乃瀧
やまひのりいとおもうさ
おもしろう皆思ひ
あわうんう

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲井[illegible]

[illegible]

[illegible]

家經

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

よろづの事ども
せさせ給ひ大かた殿のうへ
うち〳〵き沙汰ひかり
ゐさせ給てとりもなを
きやうつきぬそくだう
時まち年ごとにまいる
まち一年資盛北中将
ぬき

とよろこび給ひて北御方の御装束にわたいのよ
ものとおもふ人はせんじ
をたにもあらめそたゞ

宰相をとわかき男ども
五位六位のたゞせ給ふに宰相ゐ大将
めてうへのさぶらひ
やのたゞ中ゐ
女房はゐをゐひかまきこさせ給ふ
いとおかれに三ゐよりはじまりて
も女房ものをいとおかしく
めぢうん中ゐ
らんいとくるさゐをかしこ
ゐをかゐきくをかし
を二条殿白よろこ

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

なりすおはきよたるそ
せ給く十月廿余日供養せ給
時給ふくやうせ給をはしめ
そうそ北大事ゐいかくの
御ほせ給ふるわそせ給
ふをき遊よ勾當きやう方
きもうそをそひそんとみえて
御ほ堂のけさかう拍く
かくめりそられあるよあを
きこ給堂の飾りものと拵
猶隋の地ふこうのいさこ

なり池のうすきわうり姫
きそそなりをれとおはつ
あをきうきこ面いね乃
うみゆ三百人方僧のうも
道ーそうとそうく千人北僧をれ
うえはへしわうく花をおまてさうそき者うを
おりーうみゆ行幸なと北
別當うんさやうまりめくたた
なしなりさりなとをめくほたいうう
てそうく世給ふいうく
世給ん御幸をまうくおほ

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

さうく記人くれむすあ乃加ゝきをみるめ
いそゝせ給ふうゝうれ
ゝせともわやくをゝいさゝれ給ふせ
たゝ加のみ祖ひ記なとゝてみしゝさてそわ
りくは禦乃ーーもまゝお開白とゝくれむすあと
て安侍らゝよゝの世さ給竹資神ゝ中納云乃小侍
さふらひ給ふ一条院の信宗中納とさゝそゝふ法
むもめ此大納云此ふ乃将津守阿家小智文の中
納云此はゝ乃出雲寺なとうやうの君たちれたや
おうをみるめりて祐大まゝのこいふ記小
もおうすひゝもそまゝうゝ

おう事文ゝ毎くなゝもゝ世行くゝせ毎記ハ
おうゝこゝよゝておうゝまゝせゝ
めてうゝ毎れもくをめてうゝまくおう
め次大将毎もはかゝさちあかゝ
あいさやうつきめくなきゝ
のゝうゝ記いくなわうさゝ
ひゝへまゝせ給ゝ毎ゝのゝ
うつゝ思ゝはせ給へ毎さゝゝしわあわ又も
記やハ毎くなゝすおうせ行ゝ毎を安事
乃あわはまゝゝゝ毎ゝうきゝしみ
乃をなゝますひあみやの三はけうゝおうせ

給とつましく北方なくゆあみ見てくまつり世行
てゆくくり行世行中文まそこれなひ女まそて
おりつます四条宮よつまおくまするて
まくまらせ行り大将殿のわりこころをまりまち
わりて御くまたせ給つらを行つて
こみをあ行あ行めしうへの行なりひ
あやくお給しくまのこをなりなさせ竹民部の甚
まこりくなやまくまち給まりむのり雑
もりまり志行まんすりんとなけり世行さ給と此
うへはわり常こをあれいてまり給て
ものまくおりつ行くりんすりむとそ

の行けりいとおくまけまて
此人まよ心くまくお明まり
給ふつきまり栗宮大夫面
さ面まてをりつきさまま
まくは面おりめまうり民甲はあにくて一の大
納言まくれさま給まんこをいくまかまき行面
大面はお段大臣まなりせ行ね民甲はも右大臣よ
まき宮大夫は内大臣源大納言まおもてみせ
まて我今まてりてあるまくと竹くて
大和にありせ竹ねさまくいとめてたり阿よみ
大納言はくまわなまとなけかくいくおおか

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

らん数と十八まそこそなく
かしいなめそたく土佐つの右大弁乃う人と大臣と
面拝志なくを路頭こそ世なくなくめそたくれ幸ひ
加免を同一おつかいて称くめくさぶすやうく
浦まれさひそ胡いを同お度なりますりち
小一深のおく奥信公たれ子右れ子や小将宮乃九
深夜をやけ世給ふるを世に同お度とう語つる
へうなくこそいとめくあくなりますあと
を世人やうに二家れいたりにおりますよ祭
のさ記あく拍拾覚せ法を換乃めくたさる頭
さ法らうに又乃自業報ふわうく世路志れを頼
乃めてたう宇法うくこそ小乃陣み大殿法うう
車よ世さ務行てお言いるさうひたうくす小供と作業師れもるのにひろさふれ法乃人呼お
里そねなこそう二交法車よ里さおく法覚す
法毎ひこそう兄弟くをろ人めくやさねお車れ
法を換常よりをくめてたくみえさ世ふふまれ
法なくはせ行なる変をそ行来けるうひより
そひいそさ世行なる法有さ頭と祭の日人さ里
をに頭よ法車乃頭毎りとめてたく世の人めて
やさねなくなんありとそ申つる八さる

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

みやつのさはるへきにあらねとも
山のまそいとことにうつろひ
さくあかりめさうらひて
月日かそへたれとも
そのうへうつくしきまて
させ給ふをはくあそはし
せ給へかしとうけ給はりて
ふ殿こしのおもて池山ひろう
はせ給へきはんまうをかや
十一月廿六日ゐ二文字はかり
そ八ふかうせ給ふ事共ゐ
さまかそへいそはせ給
すはまくうつそ
けるいとおもしろ
幸のはかりつるもかく
給そはかりつるもかく
ありれはこそあれ世の
ありかたき事ともをみ
まゐせ給ふをたいとよ
くこそまうせ給
るくはんのうちのん
う給はせ給ふ

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

日なり御代ゝもとのごとく姫たゝせ給ふ母北の方
大とのゝ御子共美濃守基貞ごなどもその御女
房などもとのごとくつかうまつりたまふ
そあく人のもとゝもあれと一のこゝろにて
たゝりそしりたまへるはなくみなうちそろひ
もえぎのあや物をぞそめたりける
てそ故中文と宮内文ひとつふせ侍
給しうたてさきくのさまをおりあ
もなるへし梅壺ぞをもとめたまへるそのうち人
なくはうちまうち給へる殿乃うへ女房乃うへひめ君殿
御文なるとそれはさしもきゝもあへくはらんそ陽明殿ゝ

北宮なともはらんとなり梅壺乃御事
をたゝしいはんかし三のみやはそ服せさせ給
ていてきよりなおとなくさてわたります五
節ゝれとれいの事也大嘗会なとのそくして
そきぬ宮治部のうへうをさせ給ぬ九十もとのは
ゝまつりむつ事とあれさこそ
大夫よ給ひあつらひやせ給年ごろのめもそ
内わたりまひの事ゝくはゝのおひ沖くまうか
とまらんあわさはめてたくそれやのあり十九日
院より幸あわめさゝ儀式ありて
にはひつゝひくおりさせ給ふそもとなる

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

人ゝなるころとまうしてゐんのうちの
もいふころなくのんそ
とのゝ人なとか路しめさ
に詣させ給ふ女房の人〻乃
多くせ給ふ同大殿も御
ゝ〻せ給たる大夫ふまうてさせ給をわちゝく
りてあのまゝ女房ところなくてもあわかせ給ハ
けりしなきけしき紀やまいとあてきも
あるまゝ兄まのゝを雪かとぬりてしとあてきも
りわか九日ゝ〻せ給御ふ内大臣乃為忠
やのふおわしてはつらせ給ふ二月
廿一日に御元服をかせ給ふ位に即給ふ
ゐるゝ小わかおわしまし紀春日乃御時奈乃
帝人せさせ給日とのゝ大そんの頼通の卿
せんら
御紀ともうさの花乃ちよをへく
こゝろくのんうけをこそかゝ
殿そいのゝ〻ゝをつくさせまつり八幡行
幸給りうこにありそかをかの御陵よ
おりまさせ給十餘て紀こあてつゝせ給十丁
ゝをを池りてはるゝくとよをの酒のりき丑
てはおうゝかそゝまるいとめてたしおまうせ

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

はを結てそいつをれ宮達をと見てそまつる也給
るをなくゆ〳〵小見をもんまつりてもら我
されめ〳〵とそのの二三年そうをかくいみ〳〵
記はのわさまともをみてくさめらせ給はさり
つる我は程に消とうわ詠文をと見てそまつり門
とをは禮の後詠事〳〵と立ちひしくあわれとして殿
にはかりますひめうや見をせ給ふわうり月
とひきあそひら給つれわうきことをはくて
て法院せもをき給ひて給ひはきいはあ
ふひしくおかりめさはんう詠文れは方
ふのおわり〳〵ますわわ〳〵
さうをそ給ひきかおくはあそひのわんを
屋りておはますをとくく乃う当れ事をうち
そくれをふさ屋めてこれは後のたく文
れそまきぬおそのうて世中
四月に成て祭り院詠文のわくちんさ紀
の人んするおふを詠文のわくちんさ紀
おうきをしのそしくうはくきる世房我も
神とといとえもいそ志法うわ物をも
きうれうそそうきぬひのにきのち
はをきりひたくすくをのますく
にいうりわれ院れは事ハとの法

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

いえてうあれてすおわり
ゆうしうわまらを給とう
いと哀まおさなくよる四あ
重のうとておほうとふう
うけをいみくあるまうんかきのうちひとう
める山乃うき四境せられ
いと哀也年かとそて又
りきこ四うをうるに四おし
まりう給乃うか境れ敗よ
うと哀ふてあつまうまうり給
又乃日女房のいひやわりう

いまうあれいう雲を出乃よとや
うすことをいけくこころうりん
はう乃

四うれまもみそもむ
うまれうひをうとうをし
四うれなる事のうらそあ
に乃をれりまう四源文も字治よ侍堂うそう
よひそまも法敗神文のひめ文一帖をはみやにた
りますうきなうせ法はまれうっなすかく
て猫猶女侍ときこえうせ給ぬ也不商院おりき
せ給ぬいとうもめうつるはひそし人

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

なり一院北方殿おはし
ぬいと花やかにてたまひ
給なとは対面かゝりへり
や栄えのひめ君をはなち
如あやうとりあひ人かゝ
唐衣なとめくなくおりうへ
て十人はかぬれとかゝ
見へなるふせんきうとこ
記あえ方ふも四人はか
紙かゝりありさまんとそ
はうともを院いつきをとをゝの

なり寸見なるせ給かくて六月つこもりかゝまお
はをも紙ぬ人北家おありまますまゝのそ北殿
おそ大臣殿ふはたゝ給紙は祓おあなといと
めくたしありをゝえらを紙文も毋
帯ゝまりてそゝらを紙ぬ久しくなる長
なけをと昔をいまゝとそりなゝ学ゝ給ふいつゝも
なくてゝてゝ活出房れんちをはゝんうし
京ふ四人なてゝゝんんをもまりていうまおをもん
けをなとのあゝゝゝまてゝ物のくてゝゝ
てしくらんいと長ゝり内大臣北今八三位
ゆおとてよるく花やのれるはあり板あり花史

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

殿乃北のまちせ給へるうちの文ふみ
とをそへてまいらせ給へるとを殿のよりさせ給へる
女絵どもいろいろそへて給なと中将の君よりせ給へる
中将の君なりそれもの春日祭の上卿せられを給
はりもて参る乃ち殿上人ひきつれまいりぬれは
ぬを義人ゝ位ともはうまきつれのり乗れり
きう心ゝ思ひゝ心ばえをつくしたるかし
宇治なる四条宮おりしも比うす紅梅のや
家ゝ植ゑ給きいつくしめてそ春の曙
のころもおもしろき程なりしまゐりなめを
あやうき思ひぬうちわれさし乱乃まゝ

わすらんとそんかつひに旧枕をとうとくなく
ていそうろうまゝにまいつてまいりなゝ
まゆゝ思ひわたつ河なみをわたらせ給へるとい
つそれとうろうわたうろうをかつてはか殿と
つうせ給て祭のさま見あつまりさまよのつねあり
めくなくて帰らせ給つをまて大殿乃うゝてお
りまいりまいりて給へるうくたうまいりたるを
しさうくしうせ給へるを春見朴もんゆの殿
給てやそうく兄なりをはけんこん乃うちに思
あまりうを押心なき乃をやそめそ思ひ
り又乃日ゝうせ給へるかふそうち

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

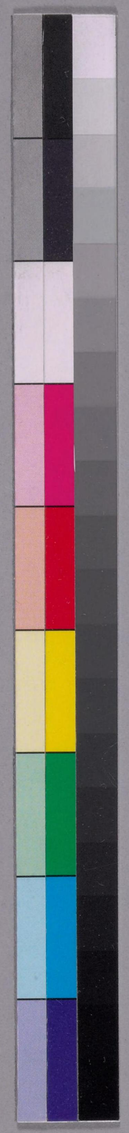
ゆうそくうちうらみそうし思やりあく世そ
又こかきの山のうら吉くひかくめてたう思ひ旅
て車ひきとゝめ侍りたすらう君人の
ゆすゑをいてくけりへそはゝうへき
そのの乃山乃松乃こゑをそ
かゝるめり紀人ゟ松あを

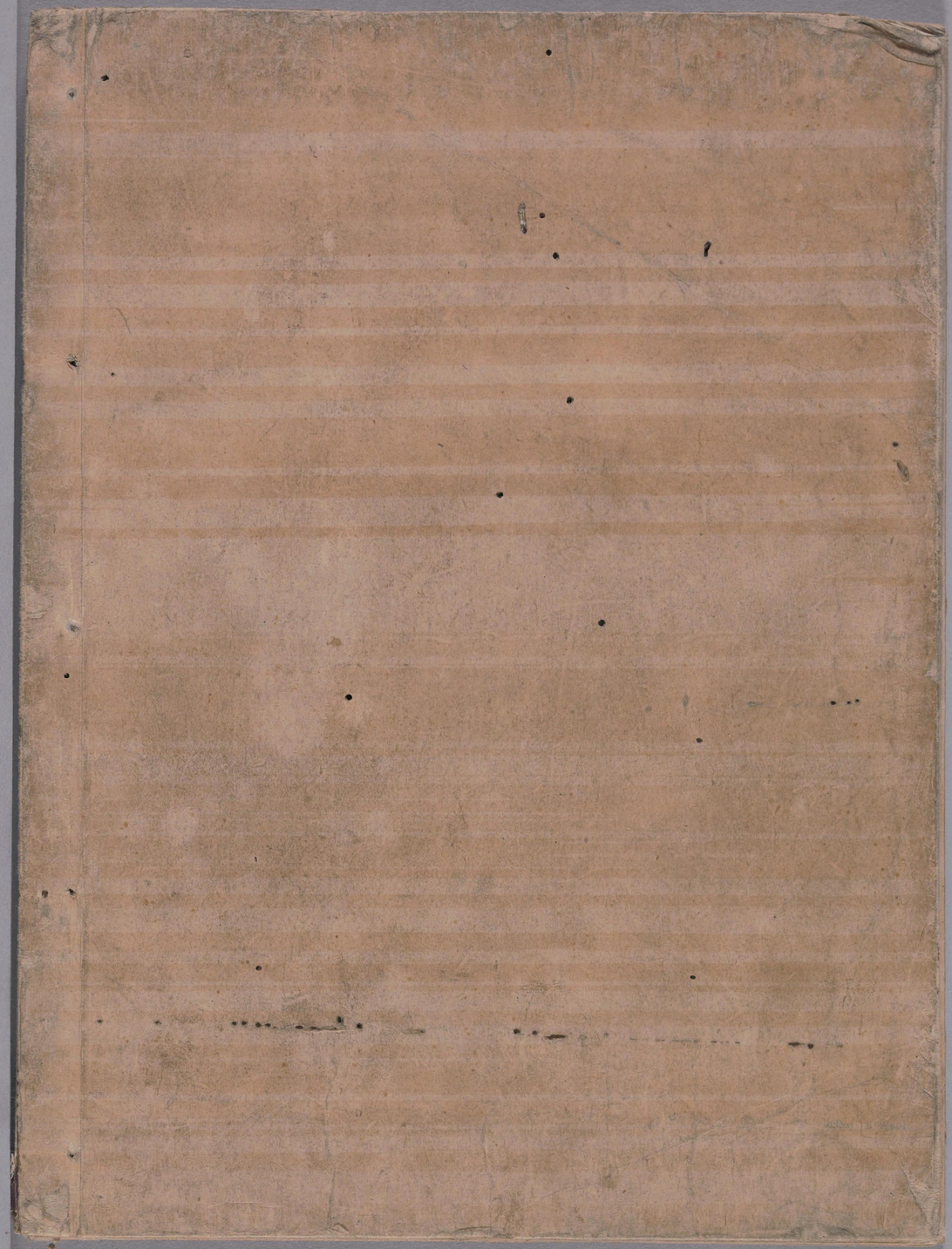
国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用





国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用